

ノリ養殖場にボート接触回避へ

レーダー反射器手作り

四日市海保が考案、普及図る

四日市海上保安部は、ノリ養殖用の網とプレジャーボートの接触事故を防ぐ手作りのレーダー反射器「みえなア缶」を考案した。「網設置用の竹さおの先に付ければ、事故防



レーダー電波を跳ね返しやすいうよう、面を多くとった八面体の反射器＝四日市海上保安部で

止に効果大」と漁業者らに作り方を広めている。

用意するのは、アルミ缶（五百ミリ用）三個に、穴を開ける千枚通しや接着用のアルミテープ。はさみで缶を切り開き、正方形三枚を作って切り込みを入れ、組み合わせで接着し、八面体を作る。レーダーが感知しや

すいよう、つるす角度も研究した。「実験では感度は良好。試してみらったプレジャーボート利用者にも好評でした」と、考案の中心となった交通課員は話す。

ノリ養殖業者をはじめ、漁協関係者、プレジャーボートの利用者にも作り方を広める予定。「ボート自体には

反射器の設置が義務付けられているが、付けていない場合が多い。事故を防ぐお守りのような感じで、一個より二個、二個より三個とつけてほしい」と呼び掛けている。

七月にある海難防止を呼びかけるイベントで配布したり教えたりする予定。作り方はホームページにもある。

（小林迪子）

★潜水男性の遺体発見
三重県桑名市沖合の伊勢湾でスキューバダイビングをしようとして海に入っていた名古屋市の会社員岡田芳治さん(五巴)が八日、同県川越町の沖合約七十メートル付近で遺体で発見された。名古屋海上保安部によると、死因は水死とみられる。行方不明になった木曾川河口から南東へ約四キロの沖合から西に約七キロの地点で、プレジャーボートで釣りをしていた男性が発見。四日市海上保安部の監視取締艇が收容した。

不明男性、遺体で
川越町沖で発見
8日午前、川越町から約

70メートルの沖合で遺体が浮かんでいるのが見つかり、名古屋海上保安部の調べで、5日から行方不明になっていた岡田芳治さん(54)と名古屋市北区と確認された。同保安部によると、岡田さんは5日、遊漁船に乗っている最中、海中に落ちた潜水用ポンベを捜しに船から海に飛び込んだ後、行方が分からなくなっていた。同保安部は岡田さんのおぼれて死亡したとみている。

市市 海上アクセス再開是非
24日に調査票郵送

四日市市は、市と中業の採算性や利用料金部国際空港を結ぶ海上アクセス事業の再開の是非を判断するための市民アンケートを、二十四日に郵送する。八月末までに返送してもらい、十月中旬を目標に集計結果を市議会に提示。田中俊行市長は、これらの意見を踏まえて判断する意向を示している。対象は市内在住の二十歳以上の中から無作為抽出した三千人。事

業の採算性や利用料金など、事業の再開を検討する際に重視すべき事項や、再開する場合の整備費用を市がどの程度まで負担すべきかなど、十一の設問に答えてもらう。

市は郵送分とは別に、市内二十三の地区市民センターと楠総合支所にも同様のアンケートを配布。希望する市民が記入できるようにする。

(大森準)